



モニュメント「未来心」および歴代優勝記念碑群（1館校舎前）



発行
 広島県世羅高等学校
 同窓会報編集委員会
 世羅郡世羅町本郷870番地



第九号発刊に

よせて



同窓会長 小島 敏文 (昭44高卒)

日頃、会員並びに地域の皆様には、本会の運営にご支援ご協力を戴き厚くお礼申し上げます。

さて昨年は創立百十周年の記念行事を滞りなく終えることが出来ました。記念式典から記念講演へと続く行事の間、全校生徒は私語もなく正に厳肅そのものの雰囲気、このような立派な学校に育った蔭には、学校・保護者、更に地域の皆様のためゆみない努力があったものと、改めて深い敬意と感謝の念を捧げるものです。

一方、本校の近隣では三和高校が本年三月、惜しまれつつ五十九年の歴史を閉じ、平成二十二年には久井高校が同様に校史を閉じることになっていきます。少子化の影響とは言え、地域の灯が消えるようで誠に残念です。今後、周辺地

域でどの県立高校が存続出来るのか、大きな転換点に立たされています。学校が特色を持ち、行きたい学校、行かせたい学校であり続けるためには、学校の努力と保護者、更には地域や同窓会の皆様のご支援が不可欠と考えます。新たな歴史を歩み始めた今、本校に引き続きご支援戴きますようお願い申し上げます。

去る十一月四日、全国高校駅伝県予選において、昨年に引き続き男女アベック優勝を果たし、男子は昨年の記録を一分以上短縮し、女子はケニア人留学生の故障で急遽、日本人選手のみチーム編成で臨んだにも拘わらず、よくぞ踏み寄りゴール直前で追い越す大逆転劇を演じてくれました。来る十二月二十三日京都の全国大会では、是非とも男女とも昨年以上の頑張りをを見せて欲しいと願っています。

七年前、ケニアからの留学生の受け入れを決定し、在日本ケニア共和国大使館を通して留学生を受け入れました。県立高校では全国唯一の受入校です。以来、多くの皆様のご協力を戴き、今日まで取り組んで参りました。今や、「グローバル社会」。肌の色の違う人々が身近で共に暮らして行く時代、当初心配もしましたが、学校地域の皆様が優しく留学生に接して戴き、不安は一掃されました。留学生の受け入れにより、陸上部選手のレベルが飛躍的に向上した

ことは言うまでもありませんが、他の生徒にとっても国際理解と協力の心を育てる上で大きな教育効果をもたらしていることを感じます。一方、留学生に対する経済的支援は、国際交流推進会議なる任意の組織を作り、同会員の皆様の浄財を元に行っていますが、特定の方々には負担がかかり過ぎるという問題点も出ています。

今後、国際交流を継続させるためには、より多くの皆様にご理解とご支援を仰がねばならないと考えております。

本校が特色を持ち、地域に支えられた学校として一層の発展を遂げるためにも、皆様のご理解とご協力を戴きますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様の益々のご健勝を祈念し、ご挨拶と致します。

学力を通しての 人格形成を



校長 北川 洋一

同窓会並びに地域の皆様には、日頃から本校の発展のために多大なるご理解と物心両面にわたるご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

本年は創立百十一年であり、改

めて一からのスタート、ナンバード1を目指して頑張っております。振り返ってみれば、昨年度は世羅高校の校史の上で、重要な忘れられない年でした。平成十八年十一月五日には陸上競技部が、永年の念願であった男女そろって県大会で優勝し全国大会出場の手に入れました。翌週の十一月十二日には新体育館での創立百十周年記念式典。十二月二十四日の全国駅伝競走大会では男子が三十二年ぶりに5回目の優勝。翌日十二月二十五日には世羅町内優勝パレード、五回の優勝記念碑の玄関前設置、堀割の復活。一方進路面においては、進学指導重点校に指定され、就職率一〇〇%、国立大学二十五名合格という成果をあげることができました。このことは、同窓生の皆様、地域の皆様の支えがあったからこそ実現したことであり、心から感謝申し上げます。

本年度、本校では夢と志を持ち自主的に行動できる生徒を育てようとして取り組んでおります。昨年度に続いて県内十五校の進学指導重点校に指定され、国語・数学・英語の習熟度別授業、特別進学クラス設置、各教科での研究授業の実施、毎日の家庭学習時間調べ、放課後や長期休業中の補習等を精力的に行っております。「昨年と同じことは後退。常に前に！」を合言葉に昨年以上に知・徳・体の向上を目指しております。また、部活動面では、全校生徒の約八十五

%が入部し活動しており、六月には尾三地区の予選を勝ち抜き、過去最高の九クラブ百三十二人が県大会に出場しました。陸上競技部は、昨年度に続いて男女そろって全国大会に出場、男子は本校歴史上二回目の連覇を目指して日夜練習に励んでおります。

ところで、昨年末には新教育基本法が公布・施行されましたように、教育は大きな転換点にきていると思います。この法律の理念としては、公共の精神、思いやりの心などこれまでの日本人が持っていた「規範意識」を大切にすること、日本の伝統や文化を尊重することが挙げられています。このことは、まさに世羅高校がこれまで実践してきた教育方針そのものです。「文武両道」「心と体を鍛え学習に集中する」「基本的な生活習慣なくして学習や部活動の成果はなし」といったことは、現在も先輩から受け継がれております。今後とも、学校の使命は、学力を通しての人格形成であることを肝に銘じて、二十一世紀の日本を担う人材、世羅台地の発展を担う人材を育成して参ります。

「学んで思わざればすなわち罔(くら)し、思いて学ばざればすなわち殆(あやう)し。」



昭和二十三年二月八日。最初に当日の毎日新聞スポーツ記事を紹介します。

末國 規治 (昭25高卒)

『日本学生陸上競技連合主催・毎日新聞社後援・全国中等学校対抗駅伝競走大会が、豊中・池田両市を結ぶ、省線池田駅往復三十八キロのマラソンコースで行われた。立春明けのこの日、無風に近い絶好のコンディションに恵まれ、遠くは北海道、九州まで、全国各都道府県より集まった、四十八校二百八十八名の代表選手に、本社総務部長より挨拶、塚本審判長の注意。選手宣誓の後、予定通り午前十一時、元気に満ちた、各応援団と観衆の声援に送られ、一斉にスタートした』



世羅高陸上部 往年選手 回想記

誕生

より高校となる)陸上部がこの日駅伝の世羅として全国に発信する第一歩を、この地から踏み出す記念の日になりました。

この時は参加選手が多く、区間賞の判定が困難となり、代わりに入賞六位を、十位までとし、我が校も七位入賞となりました。

成績、優勝田川中(福岡)2時間13分15秒・七位世羅(広島)2時間16分33秒。オーダー、森重定雄・宗重恒夫・末國規治・岡田菊二・橘和千至・前友弘・竹本時夫。陸上部発足当時は、終戦間もなく、物資不足で履物にも随分苦労しました。未舗装道路での練習では、自作の草履も一日で破れ、途中から裸足で走る人もいました。次に男性用の足袋に帆布を裏打ちし、運動靴の代用としたものです。それでも足裏が血豆で真っ赤になる事が有り、その時は布に菜種油を浸し、火玉をたらして消毒し、皮膚を焼き固め、次の日に備えるのです。又、風の強い日は、ランニングの内側に新聞紙を入れ、防寒とし、靴中に唐辛子を張り付け、試合前にはマムシの粉を一服と、これはあまり効果は無い様でしたが、今は懐かしい思い出です。

今年も都大路が待っています。選手諸君の健闘を祈っています。

nanaco ポイントカードができました

セブン-イレブン 世羅郡世羅町本郷653-2 **広島世羅町店** 配達もOK 電話25-5151

会員募集中

TOCHU GROUP スズキ専門店

スズキオートSHOP TEL(0847)22-0279 FAX(0847)22-0977

トヨタ車のことなら 指定民間車検場 スズキサービス指定工場
トヨタサービス指定工場 ボディーフレーム修正工場

アラタニオート(株) TEL(0847)22-0279 FAX(0847)22-0977

「かくして

五度の快挙」

国藤 貢造
(昭26高卒)

私が県立世羅中の三年生になった時、保健体育教師として内海富貴郎先生が赴任され、この先生との出会いが私の走ることに始まりです。

走ることが授業のすべてだと言ふ先生の、「スポーツの原点は強健な足腰であり、強い精神力と忍耐で足腰を鍛える事は、あらゆるスポーツに共通する。」の内海節をいつも聴いたものでした。この「走る教育」を嫌がる生徒は多く

いました。私にとつては心地よい汗であり、高校を卒業するまでの四年間、体育の授業や陸上部員として走り続けました。平素は師であり監督である内海先生の指導に従い、日々練習に励みましたが、時には涙を流して先生と口論した事も昨日のことのように懐かしく思い起こされます。

いずれにせよ、内海先生あつての現在の世羅高の駅伝だという事は誰よりも私の心に強く焼き付いています。

戦後間もない衣食の不自由な時代でしたが、練習する私達部員を見守る学校周辺の旧世羅中時代の先輩達が原田皎世館に集い、体力づくりとして、私達に牛肉汁を振舞っていた事は終生忘れ

ることの出来ない大きな励みとなりました。

昭和二十四年一月五日、大阪毎日新聞社前をスタート、宝塚池田を折返しコースの自由参加の全校高校駅伝が行われ、森重(三年)、竹本・橋和・末国(二年)、国藤(一年)、岡河(中三)が出場し、六区間で全国三位の入賞に世羅の里は大きな喜びに包まれました。

これを機に走る事への理解、校内に応援気運が高まり、駅伝校としての基礎固めとなりました。また、その後も末国・岡河・谷敷と全国高校長距離界のチャンピオンの誕生となりました。

昭和二十四年の高等学校再編成により、甲山高等学校と世羅高等学校が合併して、男女共学の広島県世羅高等学校が誕生し、私はその二年生となりました。

昭和二十五年に入り全国各県予選代表の四十七校による、第一回全国高校駅伝が十二月二十七日、大阪毎日新聞社前スタート、南下石津川折返しコース(三十二キロ六区間)で行われました。広島県代表の世羅高校は二位の金足農高に二分二十二秒の大差をつけ全国優勝し(国藤・荒谷・鍛冶谷・曾根・谷敷・岡河)、初代チャンピオンに輝いたことはよく知られているところです。

かくして、第二回、第二十三回、第二十五回、そして昨年の五十七回と五度の快挙を達成し、今年度の第五十八回に尚一層の活躍が期

待されるところです。



第一回全国高校駅伝優勝メンバー

駅伝と

インターハイ

政成(岡河) 孝治
(昭27高卒)

第二十一回高校駅伝が終った翌日、「相原高校(神奈川)十九年振り夏・冬連覇」と大きく新聞が報じました。「相原は同一年度に夏のインターハイと、冬の駅伝の二つのタイトルを独占する偉業をやつてのけた。第二回大会の世羅に次ぐ、高校陸上史上二度目の快挙である。」と。しかし世羅高校は、前年冬の第一回大会にも優勝しているのに、相原高校の上を行く「冬・夏・冬三連覇」という大記録を保持しているのです。

さて、「秩父宮賜杯・全国高等学校陸上競技対抗選手権大会」のことをインターハイと言います。

私は、第二回大会から第四回大会まで、連続三回出場しました。第二回大会(昭和二十四年七月三十・三十一日、大阪・中モズ競技場)では、二年生・三年生選手

の壁は厚く、入賞できませんでした。先輩の末国規治選手が五千米決勝で、降りしきる雨の中を力走し、優勝された雄姿は今もなお目に鮮やかです。

第三回大会(昭和二十五年八月五・六日、栃木・宇都宮競技場)では、千五百米決勝で三位に入賞することができました。

第四回大会(昭和二十六年八月四・五日、石川県金沢競技場)には僚友・谷敷正雄選手と二人で参加しました。

成績は、谷敷選手が五千米で三位入賞し四点、千五百米は四位で三点、計七点獲得。私は八百米を四位で三点、千五百米は一位となり六点、計九点獲得。合計十六点得点を挙げ、トラック優勝と総合優勝の栄冠を勝ち取ることができました。二位校とは二点差でした。



第一回全国高校駅伝ゴールイン



第四回インターハイ優勝杯



IDEMITSU

芸備燃料株式会社

代表取締役 坂 東 辰 男

- 本社 千722-1112 広島県世羅郡世羅町本郷812-4 ☎(0847)22-2121(代)
- セルフステーション世羅バイパスSS 千722-1112 世羅郡世羅町本郷654-1 ☎(0847)22-1151
- 世羅油槽所 千722-1111 世羅郡世羅町寺町1871-1 ☎(0847)22-1136

CAFE' & TERRACE

絵麗顔都

TEL(0847)22-2626

せらの里

TEL(0847)22-3838

表彰式では、秩父宮賜杯を勢津子妃殿下から直々授与されたほか賞状、優勝旗、優勝楯など数多くの賞品が与えられるので、二人の手に余り困っている、鈴峯女子高校の選手たちが駆けつけて来て後ろに並んで賞品を持ってくれたので大変助かりました。この大会で、鈴峯女子高校自身も、正岡由紀子選手、岩本美知子選手などが活躍し、トラック二位、総合三位という立派な成績を残しました。(因みに、正岡さんのご令兄は、創設間もない頃の世羅中央病院に医師として勤務されました。)

幻となった20年ぶりの 全国高校駅伝優勝

松金 良幸
(昭47高卒)

長年多くの関係者が待ちわびた全国高校駅伝の優勝、心からお喜び申し上げます。実は私、第23回全国高校駅伝大会におきまして、2時間12分59秒のタイムで21年ぶりの優勝を経験させていただきました。この記録は、昨年の高校駅伝に当ってはめれば42位の記録に相当し年月の経過を感じさせるものです。私たちが優勝したのは前述しましたように21年ぶりの優勝でしたが、実はその前年、監督、選手をはじめ関係者一同20年ぶりの優勝を疑うものは誰一人いないくらい実に強いチームでした。しかし、

あの思まわしい食中毒というアクシデントに見舞われ五位に終わり、失意の中、地元世羅へ帰郷した記憶が今でもはつきりと頭の片隅に残っております。

大会一週間前、20年ぶりの優勝を願う多くの地元関係者等に見送られ京都入りしました。大会四日前の練習で、メンバー殆どが下痢と嘔吐で思うように走れない状態となり食中毒であることが発覚し、新聞でも報道される事態となりました。宿舎は当然営業停止となりましたが、我々世羅高校関係者、たけ継続して宿泊させていただき点滴とおかゆで出場へ向け療養しながら軽い練習で調整をすることになりました。当然宿舎の中は暗い雰囲気、笑い声など聞こえない状況でしたが、監督をはじめ多くの方たちの献身的な努力でどうにか大会当日を迎えることができました。しかし、結果はご承知のとおり悲惨なものでした。

私たちは運良く翌年21年ぶりとなる優勝を味わうことが出来ましたが、その優勝したことより、幻の優勝となった20年ぶりの第22回大会のほうが鮮明に記憶に残っています。卒業して行かれた先輩方の悔しい想いを察しながら、「世羅高同窓会報」へ投稿させていただきました。

最後になりましたが、母校世羅高校と世羅高陸上競技部の益々のご活躍をお祈りいたします。

「回顧 第二十五回 全国高等学校 駅伝競走大会」

小山 英士
(昭50高卒)

私はこの二十年間、世羅高校が全国大会に出場した際には、必ず応援に行っております。しかし、ここ数年、もう優勝ということは無いのかと半ばあきらめていましたところ、三十二年という長い月日を経て、昨年、ついに全国優勝という偉業を達成することができ大変嬉しく思っております。

さて、二十五回全国高校駅伝大会のことについて振り返ってみていきたいと思います。この年の優勝は、その二年前のものとは少し意味合いの違う優勝だったと思っております。二年前は、自分たちの力を出せばよいという無欲の勝利だったと思えます。しかし、この大会は優勝を強く意識し、かなりのプレッシャーの中で、自分たちの力を十分発揮し、優勝を勝ち得た大会だと思えます。五千メートル十四分台四名、その他のメンバーの力も充実しており、当時のチームとしては最も強力で、周囲の人びとが優勝を期待するのにも無理もない布陣でした。そしてメンバー全員が、自分が万が一ミスをして、必ず他の選手がそれをカバーしてくるという信頼感を持って臨む

ことができました。そして四半世紀を迎えた記念すべき大会で、我々世羅高校チームは二位に三分二十八秒という歴史的な差をつけ、七年間破られていなかった全国高校最高記録を塗り変え「夢の八分台」と形容された二時間八分四十秒で二年ぶり四度目の優勝を飾ることができました。その当時はまだあまり普及していなかった科学的トレーニングを模索しながら、世羅高校の第二期黄金期を築かれ、この年を最後に高校の指導者を退かれた監督の新畑茂充先生の最後の全国大会を、このようなすばらしい成績で飾ることができ我々選手一同は、大変嬉しく思いました。

この会報が発行される頃には、選手たちは全国大会連覇に向け、厳しい練習に励んでいることと思います。私もまた、京都で昨年の感動が味わえたらとその日を楽しみにしています。

世羅高校第三期黄金期を迎えることができたのは、同窓生の皆様や地域の皆様方の温かいご支援の賜です。今後ともより一層のご支援とご協力をお願い致します。



アンカー福場選手

優勝

世羅独立四度目の栄冠

O A 機器・事務用品・学用品 } 卸・小売
 オフィス家具・教材教具・教科書 }
 コクヨ 森田尚文館
 特約店 森田 努(S29年卒)
 世羅郡世羅町 TEL22-0136(代)
 FAX22-3051

確かな技術で豊かな郷土の創造を目指す

株式会社 山平組
 代表取締役 山平正登
 世羅町別迫711
 [本社] ☎(0847)24-0111(代)
 [工場] ☎(0847)24-0226(代)

JSA QMS JAB
 JIS Q 9001:2000 QS Accreditation
 登録番号 JSAQ1904 認定番号 R001

高い目標、そして 決意に燃えて

清谷 匠
(平19年高卒)

平成十六年、私は長い歴史と伝統に輝き、駅伝で名高い世羅高校に入學しました。しかしその年は前年度に県予選で敗退していたこともあつて、「先ず全国大会出場」だけしか頭の中にはなかったように思います。結果として、県代表として全国大会には出場したものの25位の成績に甘んじなければなりませんでした。

この悔しい体験を通して、雪辱を果すためには私たち部員の意識変革が必要であることを痛感しました。全国大会に出場するという漠然とした意識から脱却し、全国大会で勝負するという高い目標を設定し、その決意に燃えて練習に明け暮れました。

この年の全国大会での久々の準優勝は成績だけで見れば快挙に思えますが、私たち選手はこの事に胸を張って喜ぶことはできませんでした。

というのも、それまでケニア留学生を手本にして練習を積んできました。この大会に彼を頼ろうとする気持が強かったため各自が自分の力を十分に発揮できなかったからです。この内面の弱さを克服するため平素、岩本真弥監督が言ってきた

「高校生として当り前の事を当り前する。」、「速いチームより強いチームに」の意味を自分に問ひかけ、課題を残しながらも実践してきました。そして、世羅高創立百十周年の節目の年に全国制覇を達成することができました。これも、良い時も悪い時もずっと引き継いで来られた陸上部の先輩方のご努力と、岩本真弥監督を中心とした諸先生のご指導や、長年にわたりご支援ご声援をお寄せ下さった地域の皆様のお蔭と厚く感謝しています。



同窓生より

世羅台地の

自然のなかで



実光 紀之
(昭18中卒)

私が世羅中学校(旧制)を卒業したのは昭和十八年だからすでにその後六十余年が経過する。思えば当時は太平洋戦争のさなかで、中学校では軍事教練が義務づけられ、戦闘帽、軍靴、巻脚絆を身につけ、小銃を手に配属将校の指導による訓練が行われていた。

国策によるこうした軍国時代の教育がその後の人生にどのような影響したのかはかり知ることではないが、ただ敗戦によつて私たちの思想が大きく転換したことだけは事実である。しかしその中学時代にもなつかしい思い出がある。数ある恩師のなかで、中学卒業まで四年間私たちのクラス担任は潮千別先生であつた。きびしさのなかにやさしさがあり、一人ひとりの生徒にきめ細かな心配りをされていた。そして卒業の際に言われた「一隅を照らす人になれ」という教えを今も忘れることはできない。

私は戦後約四十年間地域の中学校(新制)に勤務し、主として理科教育に携つてきたが、この間少しでも地域の教育に役立つことができればと理科指導のなかに身近な自然研究をとり入れてきた。当時、世羅台地の自然実態はまだ明らかでなく詳細な調査も行われていなかった。科学クラブの生徒とともに山野を歩きまわり調査を進める過程で多くの新しい発見があつた。この研究は全国的にも高く評価され、日本学生科学賞受賞を機に広く知られるようになった。そしてこれらの研究成果をもとにさらに広域にわたる詳細な調査が要望されていたが、幸いにも平成六年当時の三町教育委員会が中心となり「世羅台地の自然」誌発刊が企画され、以後六年間、世羅台地の気象、地質、動植物など

すべての領域にわたる本格的な調査が進められた。この調査によつて世羅台地の自然界の全貌がはじめて明らかにされ、その成果が集大成された自然誌が平成十三年に完成し発刊された。この画期的な事業が無事完了したのは、広島大学をはじめ多数の指導者や編集委員、そして地域の方々の並々ならぬ協力によるものである。この自然誌は今なお広く自然ガイドブックとしても活用されている。

さらにこの調査で確認されたヤチシャジンなどの貴重植物が生育する世羅台地の湿地やため池は全国的にも注目され、再度の調査を経て環境省による「日本の重要湿地」の一つに選定されている。しかし残念ながらその後の急激な環境変化により、多数の希少生物が絶滅の危機に瀕している。一度失われたら再び復元できない貴重な自然を末長く保全してゆくためには、地域の人々の自然保護へのより深い関心と協力が不可欠であろう。

私たちのささやかな環境保全の活動は今も続いているが、このとりくみにつながれば幸いである。末尾ながら世羅高校のさらなる発展を祈りつつ筆をおく。



SYO EINO

総合室内装飾 企画・施工



株式会社 倉橋匠栄堂

本社 〒722-1412
広島県三原市久井町和草2195
TEL (0847) 32-7100(代)
FAX (0847) 32-6967

第二工場 〒722-1412
広島県三原市久井町和草2382-1
TEL (0847) 32-7980
FAX (0847) 32-7980

安心施工と地域密着サービスで、信頼の家づくり。

JAHBnet

日本最大のホームビルダー集団。ジャブネット

井上建設株式会社

広島県知事(特18)第180号

TEL 32-7125 ☎0120-979-575 <http://www.inoken.jp>

光る碑と 老母の想い

幾島 文江
(昭24高卒)

この度、世羅高等学校創立百十周年を迎える時、時宜に合ったといえる昨年十一月、郡立世羅女学校跡の記念碑を、旧奉安殿あと(温泉施設アークハウス今高野)に、建立し郡立期の女学校を顕彰することが出来て安堵しました。この、記念碑建立に到るまでには、推進委員の長期に亘るお力添にまずお礼を申し上げます。

また、出費多端の折から、同窓会員ならびに地域の皆様から物心両面のご支援・ご協力をいただき衷心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、私ことになりませう。我家で、小さなドラマを見ました。それは、この郡立女学校跡碑の建立実現のために奔走している最中、部屋中資料や写真を、其処ら此処らにちらかし、久し振りに毎晩難問と格闘しました。

昨今、九十七才の老母と、取り立てて話すことなどありませんでしたが、寄宿舎の写真に突然興味をもって、なつかしげに、ここに(今高野山山門脇)実科高等女学校があって、ここに、宿舎があったと語りました。

何しろ、八十余年前のことですから、友達の名前は思い出せない

が、冬の寄宿舎は寒く、同室の友達とくっついて眠ったことは忘れられないらしく何回も語りました。制服のことを聞きましたら、甲

山高等女学校に変わって、紺の上着は袴で、白袴で大きなバックルのバンドつき、スカートは裾に黒の線が入っていて格好良かったと、昨年のごとのように話しました。

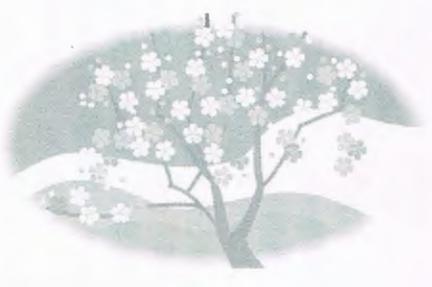
数日後、二枚の集合写真を見せられました。一枚は塔の丘で、もう一枚は甲山高等女学校玄関で撮ったものでした。

「私がいるんじゃない」と探していたが分からない。

私は、すぐ分かりました。どの写真を見ても身体を右に捻るくせがあるのを知っていました。

ここまでの筋書きを毎晩聞かされ、疲れました。

だが、久し振りに老母の光る想いを聞くことが出来て大変感謝しました。最後に、このことが光る碑と重なる喜びを私は感じました。



共に生きる

長畑(近藤)志帆
(平5高卒)

世羅高を卒業して十数年、縁あって、介護福祉士として、母校の地世羅で、介護の仕事をさせていただいて来ました。

ホームヘルパーとして、在宅での生活をお手伝いしながら、私自身、沢山のことを教えられ、結婚出産をし、人間として、成長させていただきました。そして、今、老人保健施設で、仕事をさせていただいています。

その経験を通し、一番感じているのは、生きることは、その自身が主役である、ということ。平凡に生きて来たように見えても、一人ひとりの方に、さまざまな生き様があり、背景があります。その喜怒哀楽、いろいろな話を聞かせていた、たくなかで、何かを成す成さないと関係なく、どんな人でも同じく尊いのだということ、実感して来ました。そして、その方が選ばれる道が、こちらが最善と思うものでなくとも、ご本人の選ばれる道として、尊重しなければならぬことを学びました。

その上で、個々に合った介護をするためにはどうしたらいいのか、いつも考えています。学ばなければならぬことはいくらでもあり、経験に照らし合わせて学ぶことは、本当にわくわくし、腑に落ちる、素晴らしいものです。だから、世

羅高から生活福祉科の実習生さんが来られるたび、知識もですが、その人そのものを見て介護するということが、自身の学ぶ楽しさ、生きる力もつけて欲しいと、伝えていきます。どんな経験も学びになり、学ぶことに、終わりはないことを、とても感じるからです。また、介護の仕事の素晴らしさや、楽しさに、実習の短い間ではあります、少しでも触れてもらえたら有り難いです。

誰もが両親があり、自身もいつか、老いを迎えます。これから介護に関わる人も、今、介護に関わっている人も、決して一人で抱え込まないで、話してください。笑顔が出なくなるほど頑張つては、何のために、生きるのか、分からなくなってしまう。たとえ、解決できなくても、よりよい方を選ぶことができます。さまざまな人の、色々な意見に耳を傾けることで、より選択肢が増えます。病気がなったら、医者にかかるように、介護の問題は、もつと気軽に、介護に関わる人に、話してみてください。

この仕事を通して、私ができること以上の暖かいものを、与えてもらって来ました。お返しに、私ができるのは、心をこめた介護と、日々の生活の中で、小さな親切を重ねることです。笑顔で挨拶をすること、「どうしょってですか?」と、声をかけること、自分がされたら、ちよつとうれいいな

美しい写真を真心でお届けする
デジタルプリント専門店

阿部写真館

PHOTO STUDIO シャッター

世羅町本通り
TEL・FAX0847-22-0213

進物の玉浦

☎0847-22-1107
FAX.0847-22-1567

〒722-1121
世羅郡世羅町西上原612-2
営業時間/AM8:00~PM7:00
年中無休

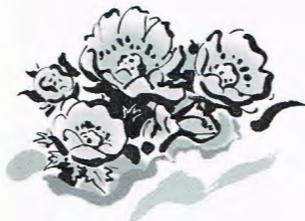
学校だより

「進路状況および取り組み」

進路指導部

というようなことを。それは、ボランティアをしたいという方にも通じるのですが、施設に入所されている方、地域の高齢者の方、若男女関係なく、かかわりを持つということ。自分忘れられない、人が会いに来てくれた、そんな喜びを、互いに分け合える機会を作っていたら、と感じています。些細なことが、人と人とを近づけます。笑顔で挨拶すれば、笑顔が返ってきます。それは、子どもも、高齢の方も、元気でバリバリ働いている人も、みんな一緒ではないでしょうか。この豊かな世羅高を、世羅の地を、日本を、地球を、ますます豊かにするために、まず、自分の足元から、家庭、近所に、笑顔があふれるよう、暖かいものを時き続ける介護を、生活して行きたいです。

高校時代、何のために勉強するのか、何のために生きるのか、模索していた自分も、先生方の温かい見守りや、友人たちの関わり、家庭や、沢山の人々との出会いの中で、今があります。今まで出会えた、すべての人に、感謝しています。有り難うございました。



昨年度の本校の進路状況は、四年生大学七十七名、短期大学十一名、専門学校五十九名、就職(公務員を含む)は三十四名でした。このように本校の卒業生の進路先は、多岐に渡っており、進路指導体制も多様できめ細やかな指導が求められています。大学全入時代といわれている昨今の状況ですが、安易に進路を決定せず、高い目標を設定して、その実現のために一生懸命努力することが出来る生徒を育成していきたいと考えています。

本校は、昨年度に引き続いて広島県教育委員会から、「進路指導重点校」に指定され、進路体制のさらなる充実が求められています。進学を希望する生徒に対して、習熟度別授業、補習授業、世羅塾、サテライト授業、教科の添削指導、小論文・面接の個別指導などとともに、進学意識を高めるために、進路講演会、大学出張講義、キャリア教育講座、学年別進路通信の発行などの取り組みも行っていきます。

就職指導については、就職ガイダンス、対策テキスト、面接指導などを含めて多数の求人を出した

いたことによつて、就職を希望する多くの生徒がほぼ希望通りの就職を決定することができました。これからも職業意識・勤労観をしつかり持った生徒を育てて行くために「キャリア教育」の視点に立って進路指導を充実させていきたいと考えております。

「自主的・自律的な態度を養い、将来の世羅各地の人材を育成する」という目標の下、教職員一同、頑張つていきたいと考えておりますので、同窓会の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

高校駅伝県予選

男女ともに連覇

気温十九度、暖かい日差しの下、広島県高校駅伝競走大会は十一月四日の十二時二十分から男子、引き続き十分後に女子がスタートした。

女子は如水館高校と終盤までもつれる大接戦を演じた。エースであるベス・ムソーを左足の故障で欠き、急遽チーム編成を変更することとなり苦戦が予想された。

一区主将田坂は三位でたすきを二区の笠道へ託す。二位の如水館高校と並んでたすきを受けた三区貞森は、先頭の井口高校をかわし二位につけた。四区の岡田は如水館高校との差を最小限に留め二十一秒差でアンカー藤原へ。中盤から徐々に先頭との差が縮まり、残り一kmから猛スパート。残り三〇

〇mとなる競技場内での逆転劇となり、二年連覇を果たした。

男子は一年生のビタン・カロキが競技場を勢いよく飛び出し、区間新記録の快走で独走態勢を築きレースの流れを作った。二区三輪三区主将、鑑坂も安定した走りを見せ、後続との差をさらに広げた。四区中原は、前年の清谷主将に並ぶ区間タイ記録をマークした。続く五区山崎、六区大工谷も力強い走りでの区間賞。順調に首位でたすきをつないだ。大会直前にアンカーを託された折元は昨年の記録を一分上回る二時間六分二十一秒の大会新でゴールテープを切り、四連覇を果たし三十七回目の全国大会出場を決めた。



スーパーマーケット
白谷屋

■本部 世羅郡世羅町大字西上原字鎌倉880番地5
TEL (0847) 22-2828 (代)
FAX (0847) 22-2665

パオ

甲山ショッピングモール
世羅町西上原
TEL (0847) 22-3820

地域だより

近畿同窓会

「この一年の歩み」

会長 松尾千九三(昭和25高卒)
昨年十一月十二日、母校創立百十周年記念式典に六名参加。高校駅伝県予選にレポーターとして塚本卓也氏参加。アベック優勝で全国大会出場が決まると、カンパ要請と同窓会会報・現状報告の発送準備を役員総出で行い四百五十八通を発送。十二月二十一日北川校長ら来阪、先輩有志宅、会社等への挨拶廻りに役員四名同行。大会当日、西京極競技場に早朝より、関西同窓会協議会(近畿在住の十八校の同窓会支部で組織)・県人会・近畿同窓会の各応援団、東京校友会、故郷世羅からの応援団で座席満杯で準備完了。選手の健闘と大勢の応援団が一体となった三十二年振り五度目の優勝を果たす。本年に入り六月十一日総会には北川校長・近藤教諭(事務局)・金尾世羅副町長を招待し、会員約五十名の参加で盛会であった。お土産として世羅の清酒・ワイン・松茸しめじなどを全員に持ち帰ってもらった。旅行クラブ(年一、二回)、カラオケ、生涯学習クラブの三つのクラブ活動も希望者で行っており、旅行クラブでは十一月十七日京都小旅行を行う予定。これからも役員一同心を一つにして頑張っていく予定です。

本部だより

《総会報告》

今年度の同窓会総会は八月十九日(日)、世羅町本郷「玉乃家」で開催されました(出席者五十六名)。小島敏文会長・北川洋一校長の挨拶で開会し、台湾同学会陳恒盛会長、松尾千九三近畿同総会会長より祝辞を頂きました。
●総会議事
①平成十八年度事業・決算報告
および監査報告(承認)
②平成十九年度事業計画(承認)
③平成十九年度予算案(承認)
④総会開催日に関わる同窓会規約の改定(承認)

●報告事項

①同窓会報九号の発行(編集委員の確認、広告依頼等)

●懇親会

記念撮影の後、波田幸代幹事長の挨拶と藤井志郎様による乾杯の音頭により懇親会が始まりました。学生時代の思い出や母校への思いや現況を話され、和やかな懇親会となりました。
年度幹事およびお世話を頂いた皆様方、有り難うございました。
《男子陸上競技部歴代優勝記念碑 除幕式》

同窓会総会に先立ち、当日午前十時から、正門付近にて同窓会主催による除幕式を開催しました。全国高等学校駅伝競走大会の、第

一回、第二回、第二十三回および昨年の第五十七回大会の優勝記念碑が完成し、二十五回大会を含めてすべての優勝記念碑が揃ったことを記念するものです。当時の優勝時の部員も多数来校され、深い感慨の中で除幕が行われました。



陸上競技部歴代優勝記念碑
写真葉書(6枚入り)を一組千円で販売しております。
(同窓会事務局まで)

《訃報》

◇大前久男氏(昭和20中卒)
享年八十歳。昭和四十五年から六十三年までの十八年間、母校に技術員として勤務され、その後、冀北寮舎監として陸上部選手を熱心に世話される一方、地元観光協会役員として今高野山一帯の美化

にも尽力されました。
◇高尾泰仁先生
享年七十九歳。昭和三十九年から五十四年まで十五年間、農業機械科教諭として同科の基礎づくりと発展に貢献されました。
◇山根諄三先生
享年八十八歳。昭和二十三年から翌年にかけて統合前の本校の国語担当として訓育に当たられ、のち中学校に長年勤務されました。
《編集後記》
昨年暮れ、陸上部は第五十七回全国高校駅伝大会で三十二年ぶりの優勝を果たしました。
また、この八月には、この大会を含む四基の優勝記念碑が完成し、既存の第二十五回大会のものと合わせて五基の優勝記念碑が揃いました。
この一連の慶事を記念して、母校の駅伝の歴史の歩みを集めました。草創期、第一回から今回の五十七回各大会の代表の方々から当時の大会の様子や、思い出話等々をご寄稿していただきました。紙面の都合で詳細をお伝えできないことが残念です。御多忙の中会報九号にご寄稿くださいました方々に厚くお礼を申し上げます
◇編集委員
伊藤陽康(昭28卒) 石原正俊(昭28卒)
大田良晴(昭37卒) 近藤 寿(昭56卒)
林 光輝(平2卒)

慶弔花・フラワーアレンジメント
花束・ドライフラワー・各教室

はな工房 ばく

世羅町寺町隅田1459-9 ☎ 22-1445
(FAX)22-4187

lwatani Life-Up マルキチプロパンガス・管工事業
昭和シェル石油特約販売店・住宅機器
小型合併槽のことならおまかせください!

マルキチ株式会社

世羅郡世羅町西上原597番地

TEL22-1101(代)
FAX22-2568